

ディスプレイ関連の世界市場を調査

2020年市場予測(2014年比)

OLEDディスプレイ 1兆6,430億円(2.2倍)

・・・中国スマートフォンを中心にAMOLED採用モデルが増加

マーケティング&コンサルティングの株式会社富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、「高解像度化」「薄型化」「広色域」などをキーワードとした開発が加速しているディスプレイとその関連市場を調査した。

その結果を報告書「**2015 ディスプレイ関連市場の現状と将来展望 上巻、下巻**」にまとめた。

上巻ではディスプレイとそのアプリケーション、部材市場を、下巻ではタッチパネルとそのアプリケーション市場、タッチパネルメーカーの事業戦略を分析した。

<調査結果の概要>

ディスプレイの世界市場

		2015年見込	2020年予測	2014年比
LCD		1兆3,494億円	1兆1,017億円	99.2%
OLEDディスプレイ	AM	9,801億円	1兆6,254億円	2.2倍
	PM	194億円	176億円	95.7%
	計	9,995億円	1兆6,430億円	2.2倍
VFD		264億円	122億円	47.7%
合計		1兆3,753億円	1兆7,569億円	106.4%

LCDはタイプ別にTFT(a-Si TFT、LTPS TFT)、STN、TN/VAに分けて分析

ディスプレイ世界市場は2013年までスマートフォン、タブレット端末向け出荷数量の好調が続いた。しかし、タブレット端末向けは2014年以降伸びが鈍化し、2015年も苦戦している。今後はLCD(特にLTPS TFT)とAMOLEDがハイエンドのスマートフォンを中心とした需要を獲得し伸び、市場の僅かな拡大をけん引すると予想される。

タイプ別

2015年のLCD市場は1兆3,494億円が見込まれる。大型TFT(TV、PC、タブレット端末、パブリック/サイネージ向け)は、TV向け出荷数量は微増となるが、タブレット端末向けが減少し、市場の伸びは鈍化するとみられる。今後はTV、パブリック向け出荷数量は微増となるが、PC、タブレット端末向けの減少が続き、市場は微減が予想される。中小型TFT(TV、PC、タブレット端末、パブリック/サイネージ向け以外)はスマートフォン向けの伸びが落ち着き、単価が下落したことで市場の伸びは鈍化するとみられる。今後は微増が予想される。

2015年のOLEDディスプレイ市場は9,995億円が見込まれる。大型AMOLEDはハイエンドタブレット端末への採用が増えたことで出荷数量、金額ともに伸びている。中小型AMOLEDは中国スマートフォンを中心に採用が増加しており、出荷数量、金額とも前年比プラスが見込まれる。今後はTFTとの差別化から、フレキシブル製品を軸とした展開が進むとみられる。

用途別

スマートフォン向けは出荷数量の増加が続いているものの、その増加をけん引している中国スマートフォン市場

は飽和に向かいつつある。加えて、中国スマートフォンは低価格化が進行しており、単価が大幅に下落していることから、2015年は金額ベースで前年比マイナスが見込まれる。

TV向けはPDPやCRTからLCDへの需要シフトがほぼ終了している。TV向けは成熟しており、2015年はPDPの生産が終了したことで微減が見込まれる。

車載向けはTFTの採用拡大により安定した成長が続いている。また、スマートウォッチは各種ディスプレイを採用したモデルが活発に製品化されており、2015年のスマートウォッチ向けは特にAMOLEDの採用が伸びている。

今後市場拡大をけん引するのはスマートフォン向け、スマートウォッチ向け、車載向け、パブリック/サイネージ向け、医療関連機器向けと予想される。これまでディスプレイ市場を支えてきたのは民生機器が中心であったが、今後は非民生機器の需要も市場拡大を支えていくとみられる。

<注目市場>

4K/8K - TV向けディスプレイ市場

2015年見込	2020年予測	2014年比
3,660万枚	1億831万枚	5.7倍

市場はTV向け大型TFT、大型AMOLEDを対象とした。

2013年まで市場はハイエンドTV向けが中心であったが、2014年にディスプレイ単価が下がったことに加え、中国TVメーカーのスマートTVで採用が大幅に増えた。4Kディスプレイの単価に加え、4K対応の画像処理チップの価格も2014年後半から下がったことで、2015年は前年比倍増が見込まれる。

2016年以降も低価格化に伴って、順調に拡大すると予想される。特に55インチ以上の画面サイズのTVが需要の中心となっており、2017年から2018年には55インチ以上のTVのほとんどが4K以上の解像度になると予想される。それ以下の画面サイズ、特に40インチ以下は価格を重視したモデルが多く、4K化はそれ程進まないとみられる。

8K-TV向けは、ディスプレイサンプル価格が約1,000万円と高価であり、いまだ技術的にも開発の余地は大きい。また、8K-TV向けコンテンツの開発費用が非常に高いことに加え、80インチ以上の画面サイズでないとの差異を見出しにくいことから、需要は限定的になるとみられる。

<調査対象>

(上巻：ディスプレイ/アプリケーション/部材編)

ディスプレイ	1. LCD 1) 大型TFT 2) 中小型TFT 3) TN/VA/STN	2. OLEDディスプレイ 1) 大型AMOLED 2) 中小型AMOLED 3) PMOLED	3. VFD 4. フレキシブルディスプレイ
アプリケーション機器	1. TV 2. PCモニター 3. ノートPC 4. タブレット端末 5. スマートフォン	6. フィーチャーフォン 7. 携帯ゲーム機 8. スマートウォッチ 9. 車載ディスプレイ 10. アミューズメント機器	11. パブリック/サイネージモニター 12. 医療用モニター 13. その他民生機器 14. 産業用/汎用ディスプレイ
部材	LCD関連部材	1. ガラス基板 2. フォトレジスト 3. カラーフィルター 4. カラーレジスト 5. ブラックレジスト 6. オーバーコート剤 7. 配向膜材料	8. 液晶材料 9. シール剤 10. 偏光板 11. 偏光板保護フィルム 12. 表面処理フィルム 13. 中小型バックライトユニット 14. 拡散板/導光板材料(シート) 15. 導光板材料(射出成形用) 16. 拡散シート 17. プリズムシート/マイクロレンズシート/輝度向上フィルム 18. 反射シート 19. QDコンポーネント 20. 白色LEDパッケージ
	OLEDディスプレイ関連部材	1. 円偏光板 2. 低分子発光材料(EML) 3. 正孔注入材料(HIL)	4. 正孔輸送材料(HTL) 5. 電子輸送材料(ETL) 6. 高分子発光材料 7. 封止用シール剤
	その他ディスプレイ関連部材	1. 透明電極用ターゲット材	2. メタル系ターゲット材 3. ハイバリアフィルム

(下巻：タッチパネル/アプリケーション/タッチパネルメーカー事業戦略分析編)

タッチパネル	1. 静電容量式タッチパネル	2. 抵抗膜式タッチパネル	
アプリケーション機器	1. スマートフォン 2. タブレット端末 3. ノートPC	4. A I O ・ P C モニター 5. 車載用タッチパネル 6. アプリック/サイゼ-ジ モーター	7. 産業用/業務用機器 8. その他民生機器
タッチパネル関連部材	1. カバーガラス(元板) 2. カバー樹脂(元板) 3. センサー用ガラス基板 4. ハードコートフィルム/IMフィルム	5. インデックスマッチングコート材 6. I T O フィルム 7. メタルメッシュフィルム 8. O C A	9. O C R 10. 静電容量式コントロー-I C 11. 引き出し電極用ターゲット材 12. 導電性 A g ペースト
タッチパネルメーカー事業戦略分析	16社		

<調査方法>

富士キメラ総研専門調査員によるヒアリング及び関連文献、データベース活用による調査・分析

<調査期間>

2015年7月～10月

以上

資料タイトル：「**2015 ディスプレイ関連市場の現状と将来展望**」

体 裁：上巻 A4判 344頁 下巻 A4判 255頁

価 格：120,000円+税

CD-ROM付価格 130,000円+税

上下巻セット価格 230,000円+税

発 行 所：株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル

TEL：03-3664-5839(代) FAX：03-3661-1414

<http://www.fcr.co.jp/>

e-mail：info@fcr.co.jp

調 査・編 集：研究開発本部 第一研究開発部門

TEL：03-3664-5839 FAX：03-3661-1414

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL：<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>